

## 令和6年度第1回富山県国民健康保険運営協議会 議事録要旨

◆日 時：令和6年11月11日（月） 15:00～16:30

◆場 所：富山県防災危機管理センター2階中会議室（ハイブリット開催）

◆出席委員：11名

【被保険者代表】

大澤委員、谷委員、橋口委員

【保険医又は保険薬剤師代表】

今村委員、南里委員、野田委員

【公益代表】

岡本委員、神山委員、田村委員、堀委員

【被用者保険等保険者代表】

高畑委員

◆事務局：有賀厚生部長、川西理事

鷲本参事厚生企画課長、牧野厚生企画課課長（医療保険担当） ほか8名

### 1 開 会

### 2 議 事

- （1）富山県国民健康保険運営方針に定める事業の実施状況について
- （2）令和5年度国民健康保険特別会計の決算について
- （3）令和7年度市町村事業費納付金算定について
- （4）令和6年度保険者努力支援制度（取組評価分）の評価結果について
- （5）令和5年度都道府県ヘルスアップ支援事業実績について
- （6）その他

### 3 意見交換

（委員）

（令和5年度国民健康保険特別会計の決算について、）歳入全体の中の繰越金 25.8 億円と、単年度収支額 25.8 億円は、繰越金が次年度の繰越金になっているという認識で良いか。

（事務局）

見かけ上、数字が同じなのでそう感じるかもしれないが、これは偶然であり、歳入の繰越金そのまま次年度の繰越金になっているという意味ではない。

（委員）

8.4億円があって初めて収支のバランスが取れている。この8.4億円の基金を利用しなければ収支が成り立たないということなのか。

(事務局)

8.4億円は、年度途中で歳入が足りなくなる見込みで取り崩したが、結果として使わなかったため、6年度に積み戻すもの。8.4億円を取り崩したから黒字が出たわけでない。

(委員)

(令和5年度国民健康保険特別会計の決算について、)最終的にどのような評価ができるのか。

(事務局)

総括的な判断は難しいが、基本的には、歳入の範囲内に歳出が収まっているため、そういう意味ではおおむね順調に運営されていると認識している。

(委員)

(令和6年度保険者努力支援制度(取組評価分)の評価結果について、)重症化予防のマクロ的评价が前年度からの減少幅は全国5位以内となっている。これは、減少幅が大きかったということか、それとも小さかったということか。

(事務局)

年齢調整後の被保険者1万人当たり新規透析導入患者数の減少幅が、全国で大きい順に5位以内に入っているということである。また、同じ考え方の患者数についても、全国で少ない順に5位以内に入っており、両方の項目で加点されている。

(委員)

(令和6年度保険者努力支援制度(取組評価分)の評価結果について、)今後の取り組みとして特定健診、特定保健指導の実施率の改善が挙げられている。取組み事例にある、PFSを活用した特定保健指導実施率向上に向けたスキーム構築事業とは具体的にどのような事業を考えているか。

(事務局)

令和5年度より特定健診の実施率向上のために4市町でPFS事業を実施しており、前年度と比べた実施率の上昇は全体よりも大きかった。この結果から、特定保健指導においても、民間の創意工夫を生かした取組みができないかを検討している。

(委員)

(令和6年度保険者努力支援制度(取組評価分)の評価結果について、)全国第5位の結果が得られたのは、県、市町村だけでなく、関係団体の方々の協力の成果だと思う。この成果について、より一層の前進のため、県民の皆さんに周知しているのか。

(事務局)

今のところ、結果について特別な広報は行っておらず、この運営協議会で報告している。

(委員)

(令和6年度保険者努力支援制度(取組評価分)の評価結果について、)重症化予防が成果を上げているのは、県の方針として糖尿病の重症化予防に4、5年前から取り組んでおり、県医師会では講演会や各種のイベント、患者さんへの啓発を行っていることも含め、成果が出てきたものと思う。

(委員)

ジェネリック医薬品の推進について、金額ベースになると特定の医薬品を考えなければ推進は難しいと思うので、県としてどのような傾向なのかを調べてほしい。

ポリファーマシー対策について、県の国保でも服薬通知対象者に対する薬局での相談事業が始まった。これまでの訪問同意よりはハードルが低いものと思うので、これを活用してポリファーマシー対策を進めてほしい。

(委員)

糖尿病の重症化について、糖尿病と歯周病の関連が広く周知されているところであり、歯科医師会では、歯科医師の方に研修を受けていただき、患者さんに説明しているところである。

(委員)

(令和5年度国民健康保険特別会計の決算について、)例えば今後3か年について、見込み予想というものを立ててグラフ化し、示してほしい。過去3か年についても、各ポイントでここをこう変えたからこうなったといったことを示してほしい。

(令和5年度都道府県ヘルスアップ支援事業実績について、)データヘルス計画支援事業において、東京大学が提供するプログラムとあるが、こうしたプログラムをこれまで使用していなかったのか、このプログラムの特徴や使用した理由、プログラムの成果等を説明してほしい。

また、令和2年度からナッジ理論を活用した特定健診等の受診率向上に取り組んでいるが、その効果や、今後もこの理論を使っていくのかということも示してほしい。

(委員)

現場にいたとき、重複・多剤投与者の例がよくあり、患者さん自身が求めているのか、それとも自身が重複・多剤だと気づいていないのかの違いで方策は変わってくると思う。今後、マイナ保険証で見える化すれば良くなるのではないかな。

(委員)

若年層、退職後の特定健診の受診率を上げるためにはどうしたらいいのか、何かいい案があれば教えてほしい。

(委員)

単にポリファーマシーが悪いというわけではなく、医師と薬剤師がコミュニケーションを十分にとったうえで指導していかなければならない。薬剤師から医師へ確認をとったうえで減薬するのが本来の筋なので、単に剤数だけで判断せず、そうしたことも踏まえて指導いただきたい。

#### 4 閉 会